

潮流

3月11日に厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会の「ワクチン評価に関する小委員会」から、ワクチンの効果や安全性などについての「報告書」が提出された。

この報告書では、現在の予防接種法の対象にならなっていない任意接種になっている7種類のワクチン(ヘモフィルスインフルエンザ菌b型(Hib)、ヒブ、肺炎球菌小児用、肺炎球菌成人用、ヒトパピローマウイルス(HP

笠木 正明

鳥取県医師会常任理事(小児科医)

V、水痘、おたふくかぜ、B型肝炎について、「医学的・科学的な観点から人々の健康を守るうえで広く接種を推進していくことが望ましい」として

さらに、定期接種にない2種類のワクチン(ポリオ、百日せき)についても「実施方法の見直しが求められる」と

また更に、ワクチン接種に要する費用よりワクチン接種によって削減が見込まれる当該疾病に関する医療費と、回避が見込まれる生産性損失の費用等との合計額の方が大きく、費用対効果が期待できると推計されている。

わが国でも多くの細菌・ウイルス感染症に対するワクチンが実施されている。しかし、同時接種(複数接種)が存在し接種率が低いこと等、世帯のワクチンが混合されることで済むことができて、1回の接種で済むことができて、製剤もへの負担が少なくないこと、ワクチンの接種回数

任意接種で無料化されていないワクチン(水痘、おたふくかぜ、B型肝炎、ポリオワクチン)の定期接種化(公費負担)、ポリオワクチンの接種率に及ばないのが、有効でより安全性の高いワクチンの開発、ワクチンによる有害事象への適切な対応、ワクチン行政の合意形成・政策決定の横断的システムの構築、予防効果ばかりでなくワクチンの副反応等

「負の部分」についての理解も含め、予防接種の重要性を国民が正しく理解できる啓発活動等、積極的にワクチン政策の改革に取り組むべきである。

変わるか？日本の予防接種行政

指摘している。ポリオに

を接種することで免疫を得る重篤な感染症から事前に子どもを守り健康を維持するため、予防医学的に重要な手段である。

なっており、抗体価が低下して生じていることになって

感染する疾患(麻疹、百日せき等)が増えている。予防接種は国民全体の健康を守る上で重要な防

波堤であり、国民の努力義務である。世界的標準の早期実現を期待したい。子供たちを感染症から守り、健康に暮らせるようにすることも少子化対策の一環であり、重要な政策課題である。

め、経口生ワクチン(O

先進諸国では、ワクチンで予防できる疾患(VP

P)から不活化ポリオワクチン(IPV)への

変更に必要なことを、また百日せきについては、乳幼児期に接種したワクチンの効果がなくなる青

年期的追加接種の必要性があることを指摘して標準である。

性があることを指摘して標準である。

性があることを指摘して標準である。

性があることを指摘して標準である。

性があることを指摘して標準である。

性があることを指摘して標準である。



鳥取県医師会常任理事(小児科医)